

景気動向調査 令和6年度・第2期（令和6年7月～令和6年9月）

調査概要

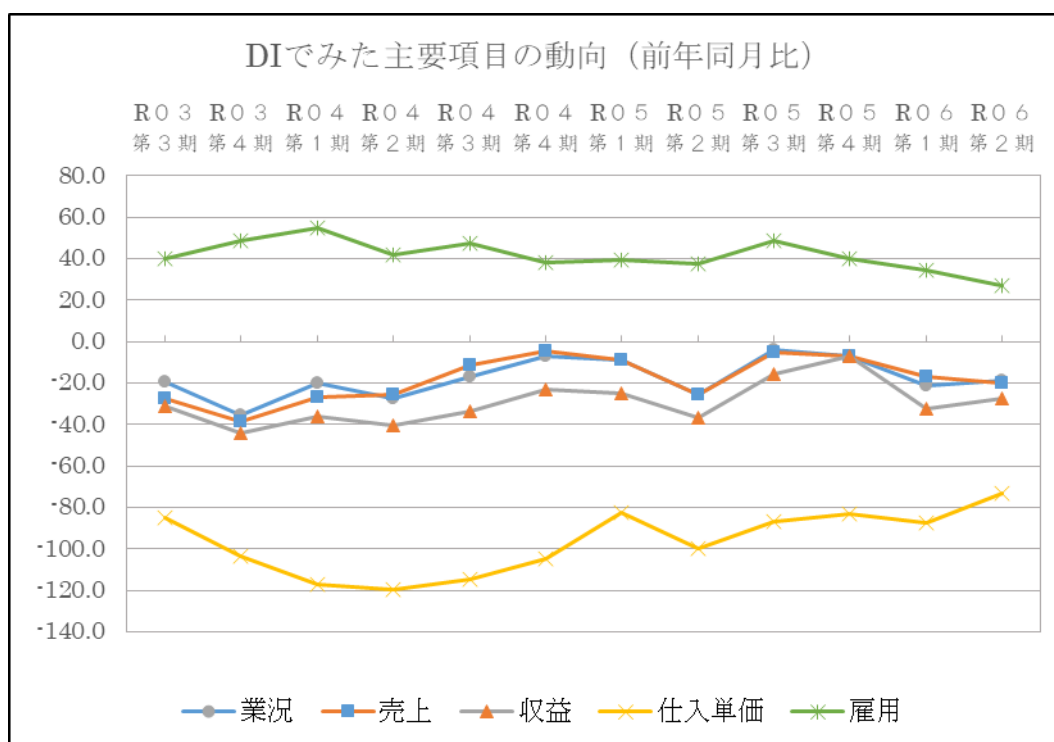
調査対象:赤穂商工会議所管内 120社

回収:85社 回収率:70.8%

調査対象期間:令和6年7月～令和6年9月(令和6年度・第2期)

DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計DI

区分	R6第1期 (R6年4月～6月)	R6第2期 (R6年7月～9月)	先行き見通し (R6年10月～12月)
業況	△21.5	△18.8	△14.1
売上	△17.2	△20.0	△7.1
収益	△32.3	△27.1	△16.5
仕入単価	△87.1	△72.9	△58.8
雇用	34.4	27.1	24.7

※雇用 DI については、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査(R6年1期)に比べ2.7ポイント上昇の△18.8となった。売上DIは2.8ポイント下降の△20.0、収益DIは5.2ポイント上昇の△27.1となり、また仕入単価は14.2ポイント上昇で△72.9、雇用DIは7.3ポイント下降の27.1となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果(R6 年 2 期)に比べ 4.7 ポイント上昇の△14.1 で、売上DIは 12.9 ポイント上昇の△7.1、収益DIは 10.6 ポイント上昇の△16.5、仕入単価DIは 14.1 ポイント上昇の△58.8、雇用DI は 2.4 ポイント下降の 24.7 となっている。

売上 D I

区分	R5 第 2 期	R5 第 3 期	R5 第 4 期	R6 第 1 期	R6 第 2 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△25.8	△4.9	△7.3	△17.2	△20.0	△7.1	12.9
建設業	△46.7	△75.0	△33.3	△14.3	△21.4	△14.3	7.1
製造業	△7.4	13.6	0.0	△8.0	△37.5	△20.8	16.7
卸売業	△50.0	10.0	20.0	△9.1	0.0	20.0	20.0
小売業	△28.6	7.7	△36.4	△29.6	△20.8	△8.3	12.5
サービス業	△22.2	0.0	40.0	10.0	42.9	28.6	△14.3
不動産・ 運輸業	0.0	△25.0	0.0	△66.7	△50.0	△16.7	33.3

○産業別の売上DIは前回調査(令和 6 年 1 期)と比較すると、卸売業が 0.0(+9.1 ポイント)、小売業が△20.8(+8.8 ポイント)、サービス業が 42.9(+32.9 ポイント)、不動産・運輸業が△50.0(+16.7 ポイント)で改善、建設業は△21.4(△7.1 ポイント)、製造業が△37.5(△29.5 ポイント)で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果(R6 年 2 期)と比較し△7.1(+12.9 ポイント)となっている。

経営上の問題点 (上位 3 項目)

区分	R5 第 2 期	R5 第 3 期	R5 第 4 期	R6 第 1 期	R6 第 2 期	前回調査比
売上の停滞・減少	29.0	34.1	29.3	26.9	28.2	1.4
原材料高	22.6	14.6	11.0	16.1	20.0	3.9
人手不足	20.4	25.6	24.4	22.6	18.8	△3.8

○事業所からのコメント

製造業：鉄道業界は 2026 年度まで横ばい。半導体業界などに期待。

小売業：食品は横ばい、衣料・生活用品はやや悪化している状況

運輸業：人材確保のための給料体系見直しにより固定費もアップしている。

それが仕入単価に反映されるとありがたい。

<参考>

有効求人倍率

区分	R6.7月	R6.6月	R6.5月
一般(常用)	0.93	0.91	0.95
パート(常用)	0.75	0.74	0.82
一般+パート(全合計)	0.84	0.83	0.89

